

特集 **それでも希望は**

2~3面 「あなたと共に素敵な朝を！」

公文和子 (シロアムの園代表)

4面 闇の中だからこそ輝く光

6~7面 Keep Hope Alive パレスチナ

The Young Women's  
Christian Association

# YWCA

12

DECEMBER  
2021

No.765

〈第33総会期主題聖句〉

平和を実現する人々は幸いである  
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉

女性がリーダーシップを発揮し、  
人権・平和・環境を大切にする社会

〈ミッション〉

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉

キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

[www.ywca.or.jp](http://www.ywca.or.jp)

# Christmas of Hope

光は暗闇の中で輝いている

(新約聖書ヨハネによる福音書1章5節)

手のひらの小さな灯を隣の人に—  
温かな光が、この世界を包みますように。



# いつも、どんなときも あなたと共に素敵な朝を！

「シロアムの園」代表 公文 和子

## 「仕える」から「共に生きる」へ

「グッド・モーニング、グッド・モーニング、グッド・モーニング・トゥ・ユー！」  
シロアムの一日はこの歌で始まります。  
どんな苦しい日々を過ごしていても、この朝、子どもたちとその家族が「グッド・モーニング（素敵な朝）」と言えるような時

を過ごしてもらいたい、というたくさんの人たちの祈りと願いに支えられて――。

クリスチャン家庭に育った私は小さい頃から、「人に仕える」ことを家庭や教会学校で学んできました。医者という職業を選んだこともそのためでした。学生時代には養護施設でボランティア活動に励み、離島で検診、バングラデシユへのスタディツアー



ジェブ君を診察する公文さん。一人ひとりに寄り添ってしっかり理解する

1、医者になってからも日本YWCAのボランティアでパレスチナに行くなど、人に仕えることを「当たり前」のように経験してきました。しかし、2000年、いざ海外で仕事として働くようになった時、「ボランティア経験」とは違い、私はいったい誰のためになぜここで生きているのだろう、という課題に直面して10年くらい悶々と過ごしました。そのような時に出会ったのが、ケニアの障がいのある子どもたちです。たくさんの方の困難を抱え、折れてしまいそうになりながらも見せてくれる、命を喜ぶ笑顔と希望があふれる瞳。一瞬で恋に落ちました。この子どもたちと共に生きよう。あえて「人に仕え」なくても、愛する人たちと共に生きればよいのだと、気持ちが軽くなりました。

そうして準備を進め、さまざまな方の支援のもと2015年「シロアムの園」が始まりました。

## みんなで一人ひとりに寄り添う

ケニアでは、障がいのある子どもたちが生きていくのはとても大変なことです。必要な医療や教育を受けることができず、根深い差別や偏見にさらされ、経済的にも苦しい生活を余儀なくされています。そのような社会的な問題によって家庭は崩壊し、シロアムの子どもたちの半数近くは片親もしくは祖母に育てられています。また、教会や親戚の集まりに行きたくても交通インフラや車いすなどの機材が整わないことに



クラス活動。資格を持った幼稚園教師と特別支援教師、複数のアシスタントが子どもたちを支える

加えて、差別や偏見にみちた社会の目が見えなくなり参加するというオプションがない、そのような中で、多くの子どもたちは毎日を家の中で過ごしています。体を自分で動かさない子どもたちは天井だけを見ながら。現在シロアムの園には、1歳から15歳までの約50名の子どもたちとその家族が通園しています。脳性麻痺、発達障がいなどさまざまな障がいがあり、重症度も違い、一人ひとりのニーズや目指すことも全く違いますが、それぞれにとって必要なことを、みんなで一緒に考え、応えていきます。小児科医である私、作業療法士、理学療法士、特別支援教師、保育士、ソーシャルワーカー、カウンセラーなど異なる専門のスタッフ、それぞれの持っているものを持ち寄ってチームで働きます。そのチームの中心は子どもたちと家族です。



ヒヨコを抱っこして笑顔が弾けるジェフ君

### 豊かなコミュニケーション

ジェフ君は2015年に8歳でシロアムの家族に加わりました。生まれた時すぐに泣かず、重い黄疸の治療が適切に行われな



かったために脳性麻痺となりました。筋緊張がとて強くつっぱることもあれば、逆に弱すぎて抱っこさえも大変な時もありました。視覚や聴覚がいつさい機能していないのか、と思うほど反応がない時もあり、表情もほとんどありませんでした。そんなジェフ君がお母さんと一緒にシロアムの園に通園するようになり、リハビリや医療、クラス活動、グループ療法などに参加するようになりました。2016年のクリスマスマスの降誕劇では、ジェフ君は飼い葉桶で眠るイエス様の役をしました。しかしマリア役、ヨセフ役、星役をした重い障がいのあるクラスメートたちが1〜2年のうちに次々と亡くなりました。そんな時、お母さんからシロアムをやめたいと打ち明けられました。3年間通っていたジェフ君にはあきらまかな改善もなく、周りの子どもたちも亡くなり、お母さんは希望が見えなくなっていたのです。私たちにできることは、お母さんの話を聴くこと以外、何もありませんでした。

### 希望を与えあう関係

しかし、その時間を通して、私たちはお母さんやジェフ君の気持ちをもっと感じることができるようになりました。そしてお母さん自身も再び私たちと共に歩みたいと思ってくれるようになったのです。そのジェフ君はここ数年、歩いたりしゃべったりしなくても、嬉しい時には素晴らしい笑顔を見せてくれるようになりました。苦手な絵本読みの時には目を閉じ、親子遊びなどの好きな遊びや、大好きなスタッフが話しかけると、ぱつちりと目を開けて満面の笑顔になります。

先が見えない暗闇の中にある時に希望を持つことは、とても難しいことです。その



子どもたちが喜びを感じることができる活動を

暗闇では、予測のつかない未来に対する不安に心を奪われ、予測もつかないまま「待つ」という苦痛を経験します。その時に、一緒に待ってくれる人、心配してくれる人、心を込めて寄り添ってくれる人、愛してくれる人がいることによって、希望が生まれます。そして、その希望が、寄り添う人にも希望を与えるのです。「共に生きる」とは、そのように希望を与えあう関係だと感じます。

光であるイエス・キリストの誕生であるクリスマスは、冬至という最も闇が長い時に訪れます。この闇の中にあっても、「グッド・モーニング・トゥ・ユー」を歌いながら、夜明けの光に喜びを感じ、希望を膨らませていきたいと思っています。

### プロフィール

公文 和子 [くもん・かずこ]



1968年、生まれ。1988年、北海道大学医学部入学。94年、卒業。小児科医として働き始める。2000年、博士号取得。英国リバプール熱帯医学学校に留学。01年、修士(熱帯小児医学)取得。シエラレオネ、カンボジアでの病院勤務を経て、2002年からケニアで活動。JICA(国際協力機構)専門家などを務めた。また、国レベルでドナー間の調整、保健システム強化の活動、現場でのHIV/AIDSに関する人材育成、スラムの公衆衛生プログラムなどを実施。15年「シロアムの園」を設立。代表を務める。著書に『グッド・モーニング・トゥ・ユー』(いのちのことば社)。

## 降誕の季節に

12月になると、キリスト教を大切にしている施設の多くはイエス・キリストの降誕劇の練習を始めます。私が勤めているまきは保育園にも、降誕劇に臨む子どもたちのにぎやかな声が響きまます。この時期が来ると、私は一組の親子を思い出します。

かつて関わった保育園で、子どもたちが降誕劇の登場人物の中からやりたい役について話し合っていた時のことです。A子ちゃんは「マリア様はかわいいぞう。私は宿屋の人をしたい」と、か細い声で言いました。宿屋の人は、赤ちゃんを産む場所がなくて困っているマリア様を助けた優しい人だから、ということです。

ところが、A子ちゃんのお母さんはそれを聞いて、「なぜ、マリア様をしたいと言わなかったの!」と怒ったのです。

## 母の痛み

話を聞いてみて分かったことがありました。お母さんは小さい頃から家庭の貧しさや父の暴力、加えて母の過剰な期待に苦しみ、家を飛び出して必死に生活し、その中で出会った人の子を妊娠。信じたその人は失踪してしまい、単身でA子ちゃんを育ててきたのです。

## 闇の中だからこそ輝く光

東京YWCA  
まきは保育園副園長

瀬口哲夫



私はいつもひとりぼっちだった。この子にだけはそんな思いをさせたくない。みんなに注目され、拍手されるマリア様をさせてあげたかった、と言うのです。

## 闇の中の光

私も、やはり小さい頃に父母の不和があり、私に対する母の過剰な期待から逃れるために大学時代に家を出ました。これからどう生きていけばいいのかわ

私に居場所はあるのかを問い続けるなかでたどり着いたのは東京下町にある貧しい街の教会。そこに保育園と子ども会があり、診療所と仕事を失った人たちのための製本所がありました。この場所で、見知らぬ私に気軽に接してくれた人々の優しさと元気な子どもたちの笑い声に出会い、行く場を失っていた私は救われたのです。心の闇が深かったからこそ、「光」は強く輝いたのだと思います。

## 子どもたちと共に

クリスマス物語に出てくる羊飼いが暗い空に天使の声を聞き、貧しい馬小屋の中に「光」を見つけたように、私は、この人々の中に「光」を見つけ、やがて児童養護の仕事へ導かれました。さまざま苦しみを背負いながらも懸命に生きる子どもたちと一緒に食卓を囲み、時に笑い、時に涙する暮らしを送ることができました。最終的に、「光」は私を、子どもたちと共に生活しながら「心のふるさと」を紡いでいく保育の道へと導き、生きる意味を照らしてくれたのです。

A子ちゃんはみんなと一緒に笑顔で「宿屋の人」をやりとげました。お母さんは涙を流して、わが子を見つめていました。お母さんの心に届いたであろう「クリスマスの光」が、今、闇の中にある多くの人にも届くことを願っています。



### 『グッド・モーニング・トゥ・ユー！ ケニアで障がいのある子どもたちと生きる』

公文和子 著  
いのちのことは社・フォレストブックス  
1500円+税

今号の巻頭にメッセージを寄せてくださった公文和子さんの著書。症状もニーズも背景も異なる子どもたち、わが子の障がいを受け入れられない家族、外国人の医師と異質な医療に戸惑う現地スタッフ……。公文さんは、神と対話し、祈りながら、常にその「一人ひとり」と真摯に向き合ってきた。今では子どもの成長と笑顔が周囲の人々とコミュニティにさざ波のような変化と希望をもたらしている。YWCAも「一人ひとり」がその人らしくあり、存在そのものが大切とされる社会を目指したい。

吉田亜希



### 『彼女たちの部屋』

レティシア・コロンバニ 著  
齋藤可津子 訳  
早川書房/1600円+税

映画界出身の著者による小説。パリに実在する「女性会館」は困難を抱えた女性たちを受け入れる保護施設だ。この女性たちのセーフ・スペースを舞台に、100年の時を超えて二人の女性の物語が展開する。二人はそれぞれの共感の仕方、貧困やDVなどで路頭に迷う女性たちに寄り添い、自分にできることを模索する。辛い境遇にあっても居場所を得て力強くたくましく生きる女性たち。そして彼女たちを「決して置き去りにしない」という強い連帯が、過去から現代、そして未来へつながる希望の光のように感じた。

岡野亜紀子

Merry Christmas

## 「希望」といえば この1冊！

なんとなく読み始めた本から、小さな光が差すことがあります。今号のテーマ「希望」にあわせて編集部会のメンバーが選んだ1冊がこちら。

あくまで個人の感覚ですが、冬休みの読書の参考にしていただけたら。



### 『人生に大切なことは すべて絵本から 教わった2』

末盛千枝子 著  
現代企画室/2000円+税

絵本編集者の末盛千枝子さんの講座をまとめた2冊目。2冊の出版の間に東日本大震災があった。盛岡に移住していた末盛さんは、震災後すぐに「3.11絵本プロジェクトいわて」を立ち上げ、被災した子どもたちに絵本を届け続けた。こんな時こそ絵本が力になると信じたからだ。彼女の半生自体が苦難の連続である。だがその語る言葉は人の心を温める明るさと慈しみに満ちている。喜びの中でも悲しみの中でも、人生の「大切なこと」に向き合ってきたからなのだろう。いつ読んでも味わい深い本だ。

西文子



### 『弱さのちから』

若松英輔 著  
亜紀書房/1300円+税

批評家で詩人でもある著者が、コロナ禍の中でつづった言葉や若い学生たちに向けた講義をまとめた1冊。先行きが見えず、みなそれぞれの厳しさが強いられる日々は、これまで私たちが見過ごしてきた、さまざまな「弱さ」を浮き彫りにした。一方で「弱さ」と向き合い、ともに分かち合うことから生まれる「ちから」もある、と語る。現代の優れたリーダーや先人たちの叡智に満ちた言葉と、「弱さ」をめぐる著者の深い思索から紡ぎ出される言葉は、私たちの行く先を照らしだす「ともしび」のように感じられる。

清田悦子

# パレスチナ

## 1 ▶ 私の出会ったパレスチナ

大阪YWCA会員 宮崎 祐

### 「占領は犯罪です」

2021年4月から5月にかけて、イスラエルによるパレスチナ住民への攻撃が東エルサレムとガザで相次いで起こり、日本のテレビでも連日映像が流れた。日本YWCAがこの攻撃への非難声明を出し賛同を募ると、6000筆以上のオンライン署名が集まった。賛同者への現況報告として、パレスチナと日本をつなぐ対話イベントがオンラインで開かれ、パレスチナYWCAのコーディネイトで、現地の若い女性たちのリアルな声を聴くことができた。

東エルサレムでは、3世代に渡り住み続けた土地から不当に立ち退きを迫られ、執拗な嫌がらせを受けて孤立する世帯がある。「占領は犯罪です」との言葉がストレートに入ってきた。また、ガザからは、攻撃を受けることはないと思っていた赤十字の病院が空爆され、自らも家を破壊された恐怖の声を聞いた。共にパレスチナ人である登壇者と司会者が同郷出身と分かり、温かい空気が流れる一幕もあった。パレスチナの人は誰もが何らかの形で今も、73年前の「ナクバ（大災厄）」を生き続けているのだと身近に感じさせられた。

### 「あなた達のサポートがあるから」

2007年、パレスチナを訪問した時、子どもから「私たちの夢は『自由』ですが、日本の子どもたちの夢はなんですか？」と聞かれたことがある。訪れるたびに状況は悪化していると感じるが、パレスチナの人々はいつも笑顔でたくまし

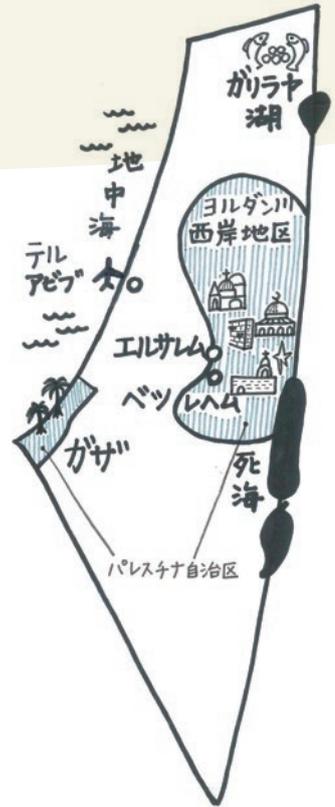


ホームステイ先の子どもたちはとても気さくで、すぐに親しくなった（中央が宮崎さん）

い。パレスチナYWCAでは今回のガザ攻撃の後、他団体と協働して子どもたちの心のケアプログラムを企画し、外部にも支援を呼びかけた。これまでも若い女性のための国際会議、オリーブの木キャンペーンなど、世界に向け発信を続けてきた。日本にいてパレスチナのことを思うと、解決が見えず心ふさぐ思いをするところが現地に行くと、人々の温かさによってこちらが元気をもらうこととなる。なぜそんなに強いられるのかと尋ねると、思いがけず「あなた達のサポートがあるから」という言葉が返ってきた。

### 「私たちにとって平和は、光」

今回、署名や対話イベント、またガザの

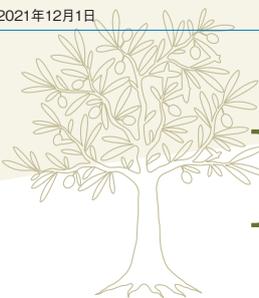


子どもプログラムのクラウドファンディングなどを通して、大勢の人々がパレスチナに関わった。現地に行くことは難しくても、オンラインで声を聞くチャンスが与えられた。これからもまず知ること、知ったことを周りに伝えること、パレスチナYWCAのSNSを開いてみる、オリーブの木キャンペーン(8面参照)に参加することもできる。

かつてパレスチナYWCAの総幹事は「私たちにとって平和は、光」と言った。平和はゴールではなく、よりよいものを探していくベースなのだと思います。「どのような状況にあっても希望を絶やさない」ことを教えてくれるパレスチナの友に心強められつつ、こちらからも思いを返していきたい。



「旅人をもてなす」精神があたたかいパレスチナ



# Keep Hope Alive

2

## この地に生きて、平和をもたらす

パレスチナYWCA総幹事 アマル・タラジ

### 73年前の大災厄は今も

1948年のナクバ（大災厄）——シオニストの軍事組織によってパレスチナの人々が故郷を追われ、その土地にイスラエルの建国が宣言されてから今年で73年。70万人以上のパレスチナ人が難民となり、今日、世界中に散らばっています。

東エルサレム、ヨルダン、シリア、レバノン、ガザを含むヨルダン川西岸の58の難民キャンプには、150万人以上のパレスチナ人が暮らしています。厳しい社会経済の状況、人口過密、インフラ整備が不十分で基本的な住民サービスを受けられず、難民キャンプの生活は困難を極めています。

イスラエルはヨルダン川西岸において、国際法違反の住居破壊や入植地の拡大を通じてパレスチナ人強制排除の政策を続けています。高さ8メートルの「分離壁」の建設、ヨルダン川西岸の至る所にある検問所、移動の制限と抑制による町や村の孤立化。パレスチナ人は子どもでさえ

も日々、逮捕され、罪状も裁判もなしに拘禁されています。ナクバは過去の出来事ではなく、現在も続いているのです。

### 持続可能な正義ある平和を

ガザ地区は14年にも及んで軍事的に包囲され、経済は打撃を受け、人々は貧困にあえいでいます。今年5月のイスラエル軍による攻撃では女性と子どもを含む256名が犠牲になり、2000名近くが負傷しました。恒常的な暴力と孤立、日々悪化する状況はガザの人々、特に子どもと若者のメンタルヘルスにも悪影響を及ぼしています。

コロナ禍がさらに追い打ちをかけています。パレスチナでは医療従事者も医療資源も不足し、特にガザ地区では新型コロナウイルスへの対応が大幅に遅れています。病院には十分なICU病床がなく、現場の医療従事者の体制も整っていません。イスラエルではワクチン接種が進んだ一方で、パレスチナ自治政府はヨルダ



パレスチナ人の移動を制限し、土地を分断する「分離壁」

ン川西岸地区へのワクチン提供に苦心しています。

政府が十分に機能しない中、持続可能な社会の構築を支えているのがパレスチナYWCAのようなNGOです。私たちは占領が特に女性と若者に与える影響を緩和しようと努め、職業訓練などの経済的エンパワメントを通じて特に若い女性の雇用の機会を生み出しています。また、若者が成長し自分たちの権利を学び、地域で活動できるよう、セーフ・スペースを提供しています。パレスチナに持続可能な正義ある平和をもたらす、より良い未来を創り出すための私たちの取り組みの中心にあるのが、地域と世界に向けたアドボカシー活動です。私たちの声に添えて日本からもたくさんの寄付をいただき、若い女性を含む弱い立場に置かれた人々を支援できました。私たちの活動はインターネットで発信しているので、ぜひご覧ください。



パレスチナYWCA主催のユース国際会議でデモ行進する若者たち。「生き続けることが抵抗だ」という（2018年）

随時更新！パレスチナYWCA



@ywcapalestineで検索を！

<https://www.facebook.com/YWCAPalestine>

<https://www.instagram.com/ywcapalestine>

<https://twitter.com/YWCAPalestine>



# 2021年度クリスマス募金のお願い

日本YWCAは、日本全国・世界各地のYWCAとつながり、  
弱い立場に置かれがちな女性や子どもを支援し、  
その声を社会へ伝えるために活動しています。2021年のクリスマスを迎えるにあたり、  
以下の3つの活動へのご寄付を心よりお願い申し上げます。

## 東日本大震災被災者支援募金

東京電力福島第一原子力発電所の事故から10年。「復興」の陰で、いまだに放射能被災による課題は、それぞれの生活の上に取り残されたままです。日本YWCAは、あの日に生まれた子どもたちが二十歳を迎えるまで支援を続ける決意のもと、コロナ禍の不安定な社会状況にあっても、多くの「小さな声」の叫びを聴きながら活動を続けていきます。

## ピースメーカーズ募金

日本YWCAは「平和を実現する人々は幸いである」をテーマに、一人ひとりがピースメーカー(Peacemaker)として平和を創り出す活動を展開しています。未来をみつめて、活動しようとする若い女性たちのリーダーシップ養成に、ご協力をお願いいたします。

## オリーブの木キャンペーン募金(1口3000円)

日本YWCAは、パレスチナの地に世界中の人々がオリーブを植樹する「オリーブの木キャンペーン」(パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAの共同事業「JAI」が実施)を応援しています。このキャンペーンは今年で20周年を迎えます。あなたもパレスチナの平和を願って贈ってみませんか? 一口3000円で1本の苗木を植えることができます。

※通信欄にお名前をローマ字表記で必ずご記入ください。

### お振込み先

郵便振替 00170-7-23723

加入者名 公益財団法人 日本YWCA

\*通信欄に「クリスマス募金(被災者支援)」「クリスマス募金(ピースメーカーズ)」「クリスマス募金(オリーブの木)」のいずれかをお書きください。

銀行振込 三井住友銀行 飯田橋支店 普通 1198743

口座名義 公益財団法人日本YWCA

\*下記のアドレスに①募金の種類、②お名前、③ご住所をお知らせください。

office-japan@ywca.or.jp

敬称略  
(2021年8月16日)10月15日

カーポート募金  
カーポート募金 59件

東日本大震災被災者支援募金  
岡野亜紀子 嘉屋陽子 小谷野淳子  
島崎真奈美 清水嶋洋子 高橋敬子  
多喜百合子 徳永明子 新倉春美  
ホンダコウジ 松原美恵子  
ムラタカズミ 吉岡真紀子  
甲府YWCA

クラウドファンディング 173件  
福島YWCA

ガザの子どもプログラム支援募金  
石田英理香 江崎啓子 小谷野淳子  
柏木妙子 倉戸ミカ 小林幸子  
桜井めぐみ 清水祐子 白井邦子  
関むつみ 俵恭子 手島千景  
鳥飼好男 永山峰子 野崎斐子  
平柳紀子 屋間範子 丸山泉  
米本裕見子

国内外の災害被災者支援  
嘉屋陽子 小谷野淳子 島崎真奈美  
高橋敬子 徳永明子 松田和子

災害時支援募金  
(オリーブの木キャンペーン募金)  
片貝聡美 小谷野淳子 坂和優  
島崎真奈美 高橋敬子  
高橋千沙子 高橋菜々子  
坪野えり子 富岡美知子

次世代育成資金  
(日韓ユース・カンファレンス)  
倉戸ミカ 是常景子 清水祐子  
朴亜紀子 藤谷佐斗子 藤原玲子  
汀なるみ 柳下史織

ピースメーカーズ募金  
(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)  
岩城紀代子 嘉屋陽子 小谷野淳子  
島崎真奈美 高橋敬子 西田悦子

賛助費  
石川和子 石川玲子 大里喜美子  
小林幸子 小谷野淳子 島崎真奈美  
高橋敬子 徳永明子 花盛静子  
藤井野百合 松田和子 三宅文子  
山形学院高等学校

ご協力ありがとうございます